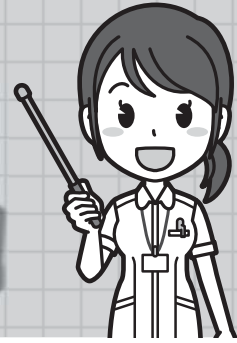


皆さまの

医療費の状況をお知らせします!



共済組合では、「短期給付財政安定化計画(データヘルス計画)」および「医療費適正化対策事業」の一環として、平成28年度および平成29年8月分のレセプト(診療報酬明細書)をもとに医療費の統計を行いました。

どのような病気で医療機関にかかっているのか、1人当たりどれくらいの医療費が使われているのか、年齢によってどのような疾病が多いのかなどの目安になります。

なお、組合員の皆さまには、年2回の医療費通知を行っております。日頃から医療費への関心を持っていただくことが、皆さまの健康と健全な医療保険制度の運営につながります。

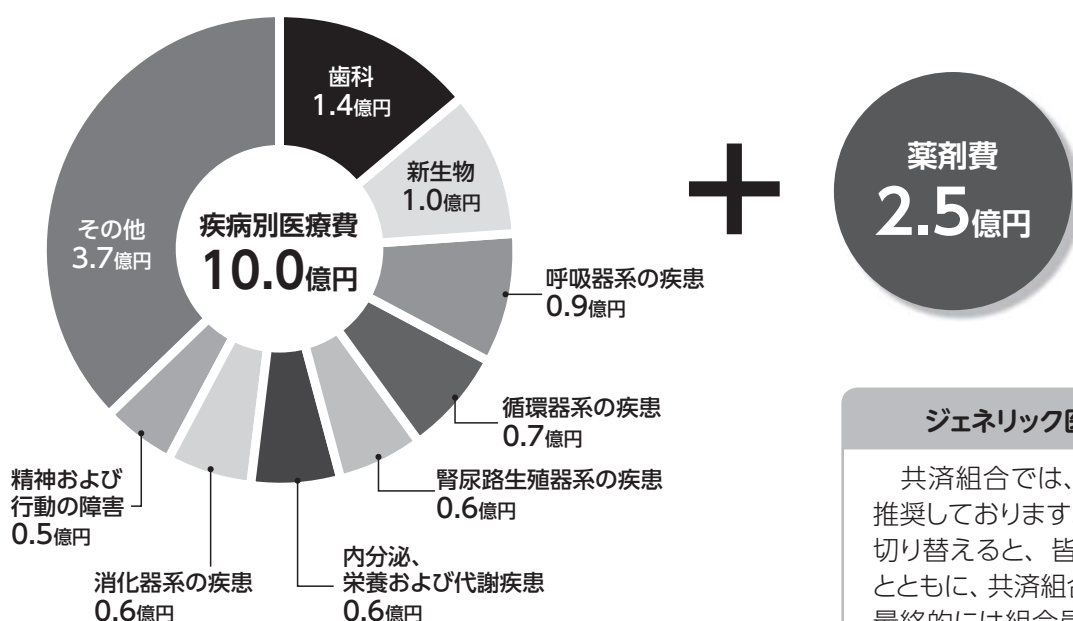
薬剤費は歯科疾患の約1.8倍!

平成29年8月の医療費に注目してみました。1カ月の医療費を疾病分類別にみると、「歯科疾患」が全体の14%を占め1位となっています。このグラフから、生活習慣の見直しで予防可能な疾病が上位を占めていることがわかります。

また、薬剤費は約2.5億円となっており、この薬剤費のうちジェネリック医薬品の利用は43%程度となっております。

早期発見、重症化予防のために健康診断は定期的を受けましょう。健康診断で異常が見つかった場合は、必ず医療機関を受診しましょう。

平成29年8月の疾病分類別医療費と薬剤費



ジェネリック医薬品のご検討を!!

共済組合では、ジェネリック医薬品を推奨しております。ジェネリック医薬品に切り替えると、皆さまのお薬代を減らすとともに、共済組合全体の医療費を抑え、最終的には組合員の皆さまからお預かりする掛金の上昇を抑えることにもつながります。

生活習慣の見直し・改善の10カ条

- その1 食後に歯を磨く
- その2 塩分は控えめにする
- その3 脂っぽい食事は避ける
- その4 野菜はたっぷり取る
- その5 主菜は“お肉”より“お魚”“大豆製品”を心がける
- その6 お酒はほどほどに
- その7 適度な運動を続ける
- その8 禁煙にチャレンジしてみる
- その9 ストレスを解消してリラックス
- その10 睡眠で十分な休養をとる



健康な心身は生活習慣の見直しから…
できそうなことから少しずつ、チャレンジしてみませんか。

呼吸器系疾患の受診状況に注目

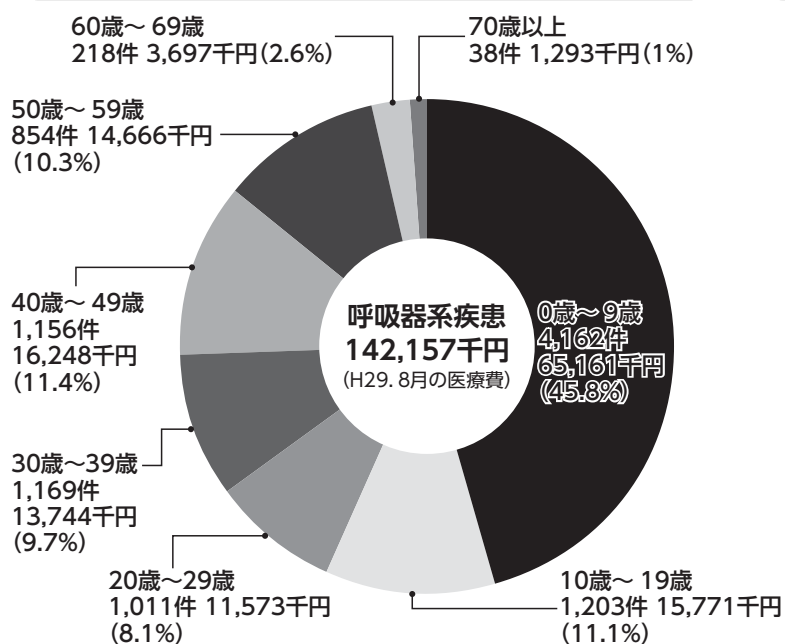
主な呼吸器系の疾患は、かぜやアレルギー性鼻炎です。

平成29年8月の呼吸器系疾患の医療費について、年齢階層別でランキングすると、下記のグラフの結果となり、0歳～9歳の年齢層が全体の約40%を占め、とび抜けて多くなっています。

1人当たりの医療費を見ると、70歳以上が最も高いですが、40代を境に年齢の上昇とともに医療費が増加傾向になっていることがわかります。

日頃から身の回りを清潔に保ち、手洗い、うがいをこまめにしましょう。

呼吸器系疾患の年齢階層別の医療費と構成割合



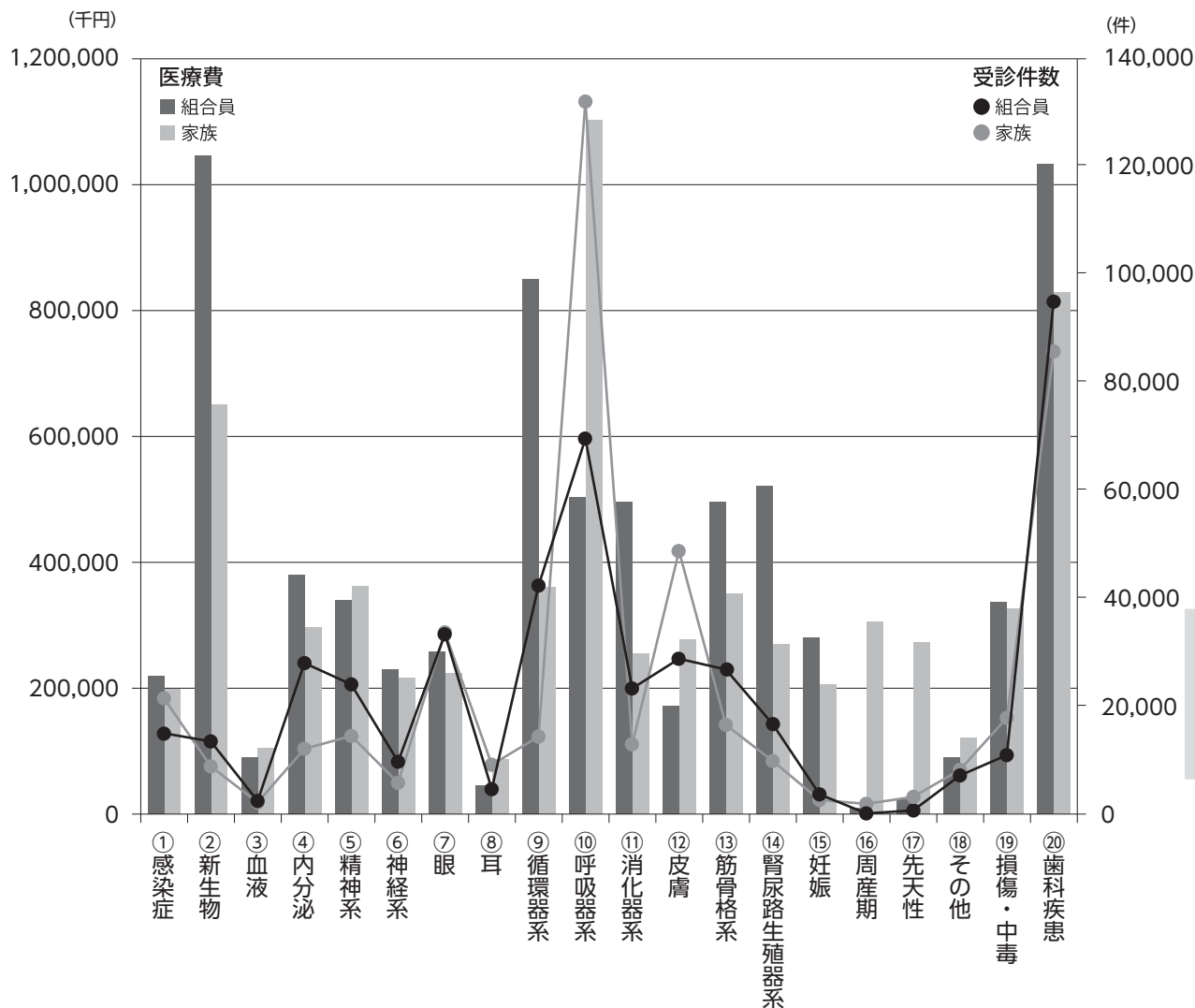
呼吸器系疾患の1人当たりの医療費

年齢区分	1人当たり医療費(円)
0歳～4歳	17,558
5歳～9歳	12,935
10歳～14歳	11,895
15歳～19歳	15,453
20歳～24歳	11,991
25歳～29歳	11,072
30歳～34歳	11,949
35歳～39歳	11,549
40歳～44歳	12,261
45歳～49歳	15,966
50歳～54歳	15,657
55歳～59歳	18,720
60歳～64歳	16,314
65歳～69歳	22,177
70歳以上	34,032

平成28年度の医療費と件数を疾病分類別にみると

組合員と家族を合わせた合計の件数は「呼吸器系の疾患」と「歯科疾患」が顕著に多く、医療費では「歯科疾患」がトップで、「新生物」、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」と続きます。

組合員でみると「新生物」、「歯科疾患」の医療費が多いことがわかります。家族では「呼吸器系の疾患」の医療費が最も多い金額となっており、続いて「歯科疾患」が多くなっています。「歯科疾患」は、組合員と家族ともに件数も医療費も多いことがわかります。



さらに年齢階層別に詳しく分析すると...

項目	主な傷病名
①感染症	結核、ウイルス肝炎
②新生物	腫瘍、白血病、がん
③血液	貧血
④内分泌	糖尿病、脂質異常症
⑤精神系	うつ病、統合失調症
⑥神経系	パーキンソン病、てんかん
⑦眼	結膜炎、白内障
⑧耳	外耳炎、メニエール病
⑨循環器系	高血圧症、脳梗塞
⑩呼吸器系	かぜ、アレルギー性鼻炎

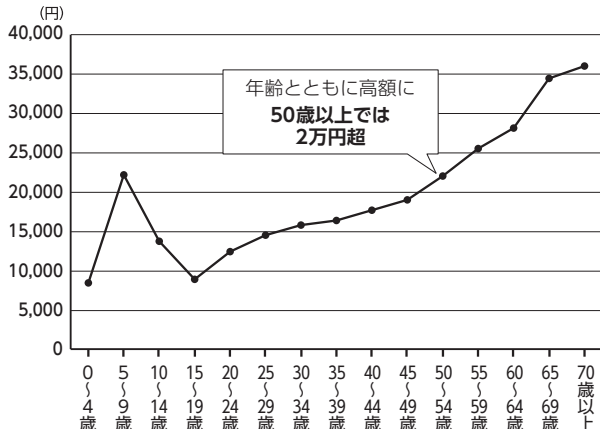
項目	主な傷病名
⑪消化器系	胃炎、肝炎
⑫皮膚	湿疹、にきび
⑬筋骨格系	関節症、腰痛
⑭腎尿路生殖器官系	腎不全、尿路結石症
⑮妊娠	流産、切迫早産
⑯周産期	胎児発育の障害
⑰先天性	染色体異常
⑱その他	ほかに分類されないもの
⑲損傷・中毒	骨折、やけど
⑳歯科疾患	むし歯、歯周病

1人当たりの医療費を疾病分類別にみると

$$\text{1人当たりの医療費} = \frac{\text{疾病分類ごとの総医療費}}{\text{平均組合員数} + \text{平均被扶養者数}}$$

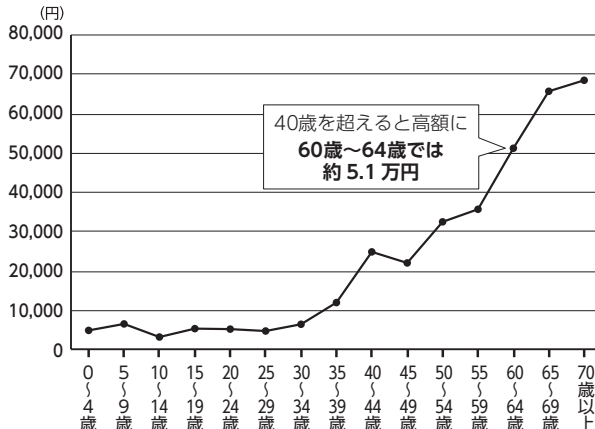
歯科疾患

むし歯、歯周病など歯の疾患では、5歳～9歳が2万2,290円と高く、また、50歳以上からも2万円を超え年齢を重ねるごとに高くなっていく傾向にあります。65歳以上では3万円を超えています。



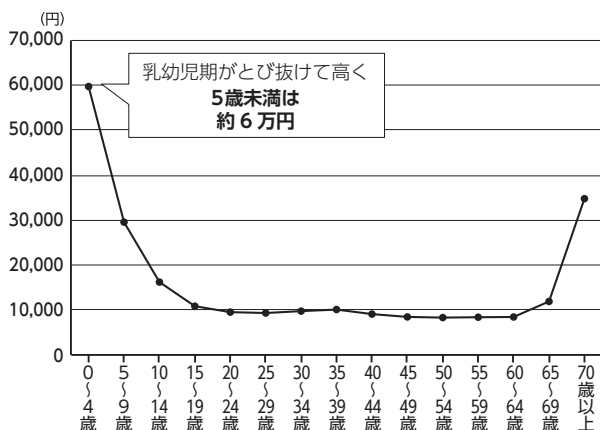
新生物

乳がん、胃がん、肺がんなど主ながんの疾患で、30歳から年齢とともに徐々に高くなり、60歳～64歳は約5.1万円、70歳以上では約6.9万円ととび抜けて高くなっています。



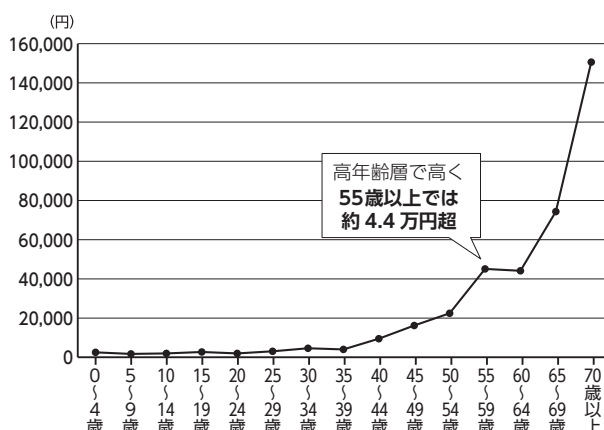
呼吸器系

かぜ、アレルギー性鼻炎、喘息等を含む呼吸器系の疾患では0歳～14歳までが60歳以上よりも高い傾向にあります。特に乳幼児期は約6万円ととび抜けて高くなっています。



循環器系

循環器系の疾患では狭心症などを含む心疾患や脳内出血などの脳疾患が多くみられ、30歳まではほぼ横ばいですが、45歳以上からは1万円を超え、55歳を超えると一気に増加し、約4.4万円を超えます。



これまでの統計・分析から、30歳から徐々に高血圧やがんなどの生活習慣病関連の医療費が高くなっていくことがわかります。一方で、むし歯やかぜなど普段からかかりやすい疾患は乳幼児期や50歳以上の方に医療費が多くかかっています。これら身近な病気は、毎日の歯磨きやうがい、手洗いなどで予防できるものなので、習慣づけて行うことが大切です。

疾患の中でも、生活習慣病は35歳を境に右肩上がりに受診者数が増加しており、医療費もとび抜けて高額になります。年に一度は必ず健診を受け、食事や飲酒など日頃の生活習慣を見直し、禁煙や運動を意識的に日常に取り入れるなど、日々のちょっとした行動で、家族みんなで健康的な暮らしを実現しましょう。